

## 54 なが わか の ひく あな 長岡の百穴

伝承地：長岡町550

話者：20



(長岡の百穴)

市内で、古代人の遺跡を代表するものとして長岡町の百穴がある。これは、大谷石に似た凝灰岩から成る丘陵の斜面に蜂の巣のようになり抜いた横穴（古代人の墓）であり、県の史跡に指定されている。百穴という名称であるが、現在は52穴を数えるだけであり、各穴には、室町時代の作と思われる観音像が刻まれている。

この百穴と観音様には次の四つの話が伝わっている。

1. 第10代の崇神天皇の皇子であった豊城入彦命が東征のおり、住路、長岡の地に來られた時、付近の豪族の強い抵抗にあい、容易に征服できず大激戦になった。その折、命の軍のおもだった家来百人程がこの戦いで戦死してしまった。悲しんだ命は長岡百穴に遺骸を手厚く葬ったという。
2. 弘法大師が大谷に來られたおり、これより東方2里程のところに長岡という村があり、そこに豊城入彦命の家来衆百人の墳墓があると聞いてさっそく長岡の地を訪れてみた。すると墳墓は、ツタやカズラがおい繁り荒れ果てていた。大師は驚き、さっそく雑草を切り払い掃き清め、百人の御霊をまつるため露出した各穴の奥の壁に観音像を刻まれ手厚く弔われ、長岡百観音寺を建立されたということである。
3. 百穴の観音像には、弘法大師一夜の作という伝承がある。大師は99体の観音像を彫り終った時に一番鶏が鳴き夜が白々と明けはじめてしまったため、100体目を刻むことなくいずこへか立ち去ってしまった。里の人達は、未完成の百個目の穴に石の観音像を安置した。

この観音像は、今も存在し、元観音と呼ばれている。

4. かつて、百穴には百観音寺という立派な寺院があったということである。しかし、この寺は次のような理由で廃寺になってしまったと伝えられている。三代將軍徳川家光の時、江戸城内で諸大名を集めて「長岡百観音寺」の由来が上演された。家光は、宇都宮城主に観音寺について訪ねたが、城主は領内にそのような寺はないと答えてしまった。宇都宮へ帰った城主は、家老から長岡に百観音寺が存在することを聞いて驚き、一夜のうちに寺を焼き払うと共に、村人に観音寺のことは口外してはならないと申し伝えたと言われている。

